

# CAGLIERO<sup>11</sup>

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.34 - 2011年10月



## 親愛なるサレジオの宣教師、サレジオ・ミッションの友人の皆さん!

宣教の月、ロザリオの月に、心からのあいさつを送ります! 第142回宣教師派遣では、サレジオ家族の74名の宣教師がヴァルドッコから出発しました。この小さな数の人々は、宣教する者であるという私たち皆の特徴の大いなるしるしです。宣教の召命は、イエス・キリストへの私たちの信仰を表しているということ、私たちは知っています。コルカタのマザー・テレサが16年前にサレジオ会の修道士にあてて書いた言葉を紹介しましょう。「すべての国々にみことばを広めるようあなたを促すのは、神の愛であると私は確信しています。神ご自身が、あなたの宣教の召命に実りをもたらしてくださるでしょう。でも、決して忘れないでください。あなたの第一の召命はイエスのものであることです! どこにいても、どのような仕事をしていても、イエスのものであるために最大限の努力を払うとき、あなたは主に最もよく仕えることができるのです!」ベネディクト十六世が2011年に示したイエスのことばを、私たちの心に喜んで受けとめたいと思います。「父が私を遣わされたように、私もあなたがたを遣わす!」(ヨハネ20・23)サレジオの宣教召命のために、2011年10月のロザリオを捧げます!

*Vedran Cernat*

宣教師顧問  
ヴァツラフ・クレメンテ神父

## ドン・ボスコのカリスマを忠実に文化の中に開花させてください



「……親愛なる新宣教師の皆さん、この福音宣教の使命を果たし、人々の心を変え、それによってこの世を変える使命を果たすために、イエスほど良い模範はありません。パウロは、フィリピの信徒への手紙でそのイエスを示してい

ます(2・6-11)。実際、キリスト・イエスの思いを自分のものとするよう、使徒は招いています。言い換えると、深い謙遜をもって隣人に仕えるということです。競争心やうぬぼれの心のまま福音を告げることにつながるエゴイズムを乗り越えるには、キリストに倣うことをおいてほかに道はありません。……これが真の文化内開花のモデルです。福音宣教に不可欠で、諸国民の文化の心に触れ、変容させるものです。すべての人への宣教 missio ad gentes に赴くということは、私たちが派遣される人々との間を隔て得るあらゆるもの、私たちの思い込み、もののやり方、取得してきた技能、経済的手段などを棄て、謙遜のうちに子どもようになって、人々の言語を学び、文化を知り、人々の持っているすべての良いもの、美しく真実なものを評価すること、ひと言で言えば、ご自身を与えるほどに愛されたキリストの愛に倣い、人々を愛するということです。

使命への取り組みを聖体と一つに結ぶことができれば、キリストに倣うことはよりたやすく、より忠実になるでしょう。これが皆さんの成聖の道です。皆さんが祝うことを生き、生きていることを祝うことができるように。このようにして、聖体は皆さんの使命と霊性の源泉となり、福音宣教は聖体祭儀の延長になり、キリストの受難の欠けた部分が、皆さんの体のうちに完成されるでしょう。

ドン・ボスコ生誕 200 周年の準備の 1 年目にあたり、皆さんが派遣されるさまざまな場所で、ドン・ボスコのカリスマを忠実にその文化の内に開花させることができるように、ドン・ボスコを研究するよう、皆さんに呼びかけます。……」

2011年9月25日 ヴァルドッコ、第142回サレジオ宣教師派遣式説教  
パスクアーレ・チャーベス・ピラヌエバ神父



## ボランティア活動を通して考えた、「神様は私に何を望んでおられるのか？」



**私**はフランス人、専門はエンジニアです。1999年、学生生活最後の年に、ボランティアに参加することを決めました。摂理的に、コートジボワールのサレジオ会で教師として働くことになりました！ 実際、私は奉獻生活を考えたこともありましたが、まだ模索中でした。コルホゴのサレジオ会に出会ったときの印象は、兄弟として迎えられた、というものでした。何もかも分かち合いました。振り返り、仕事、喜び、悲しみ……2年後、私は真剣に将来のことを考えはじめました。神様は私に何を望んでおられるのだろうか？ この世界のために、私は何の貢献ができるだろうか？ どのように仕えたいのか？ ドン・ボスコの伝記を読んだ私は、それが今日の若者のために答えを

見つけるのを助けてくれる、一種の教育的寓話だと気づきました。そして私は、自分の数多くの望みを一つに統合することができました。最も貧しい若者たちを養成し、共に歩み、福音を伝えるという目標です。しかし、イエスへの愛もまた、私の召し出しの中心です。本当の愛は、一生イエスに従うことです。こうして私は、2011年に修練期を始めることにしました。コートジボワールの2002年から2003年にかけての内戦は、私に深い印象を刻みました。神は、この大陸で宣教師となるように、平和の働き手となるように呼んでおられるのではないかと。そこで私は総長に志願の手紙を書き、司祭叙階後、2009年にチャドに派遣されました。

フランスで、ヨーロッパで、サレジオ会の召命は少なくなっています。海外に派遣される宣教師になることは、私たちのヨーロッパの国々のニーズを考慮すると容易なことではありません。しかしながら、私たちの存在・働きの質を決めるのはそれぞれの場所の会員の数ではありません。この世にあって、私たちは、人々の抱える問題の中心にとどまりながら、意義のある提案をたずさえて人々の行き交う場にいなければなりません。それが宣教師になるということの意味です！ 会はこのことを理解し、最も助けを必要とする若者たちのいるところへ私たちを派遣しているのです。

新宣教師のためのオリエンテーション・コースでたくさんのことを学びました。最も重要な宣教論、人間学の土台を提供してくれました。また、宣教師生活にありうる幻想や挑戦について前もって注意を促してくれました。カルチャー・ショック、より貧しい環境への適応、家族と遠く離れることなどです。実に、一生をかけてad vitam宣教師になることには、宣教師も、会も、真剣な識別を求められます。

このチャドというアフリカの真ん中の素晴らしい国で、気候その他の数々の問題は、私にとって挑戦でした。次のような課題の多くが、サレジオ会に与えられています。貧困の悪循環を止めること、若者の職業的養成、多宗教・強いイスラム色の環境で福音を文化の内に開花させることなどです。善意だけでは、落胆と戦うのに十分でないことがしばしばあります。そのため、チャドの宣教師は、実りをもたらすために祈りと秘跡に根ざさなければなりません。サレジオ会は、政情不安と貧困にあえぐサヘル地域(サハラ砂漠の南の地域)の国々に多くの関心を払ってきました。しかし、私たちのカリスマを活かしながら貢献する会員が、もっと数多く必要です！ この多くの若者たちがそのことを思い出させてくれます。二つの点が特に重要だと思われまます。アフリカの状況に予防教育法を適用すること、そしてよ局的を絞ったプロジェクトのために共に働くことです。主が私たちの兄弟の間から熱意に満ちた宣教師を呼び、チャドへ送ってくださいますように！

フランス出身、チャドの宣教師 **グザヴィエ・ド・ヴェルシェール神父**



### サレジオ会の宣教の意向

#### 全世界の管区宣教促進担当者

90に及ぶすべての管区において、宣教促進担当者が熱意にあふれて、会員たち・各共同体・若者・信徒協働者・宣教チームのなかで宣教を促進しますように。

各管区の福音宣教の炎を絶やさないうため、宣教促進担当の兄弟たちの働きが必要です。2010年8月にインドのシロンで出版されたアンソニー・ロイ神父の著作“Salesian Missionary Vision 1923-1967”やドン・リナルディのころから第2パチカン公会議のころまで出版されていた雑誌“Gioventù Missionaria”は、さまざまな宣教グループを通して行われた宣教促進の動きを伝えてくれます。私たちは、カリスマにおけるこのダイナミズムに触発され、あらゆるサレジオ会事業の中に宣教グループを立ち上げ、活性化のための資料を定期的に送り、宣教師の召命のために祈り、また宣教師たちの体験を分かち合うことができます。



ご意見をお送りください。 [segrgia@donboscojp.org](mailto:segrgia@donboscojp.org)